

# 開成の杜

第103号 ●2017年6月15日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



学園前の桜とせせらぎこみち

(撮影 山口郁生)



理事長・学園長  
関口 修

## 新緑に思う

毎年このことながら、新緑が醸し出す風情は人智の及ぶところではなく、如何なる名人上手の絵筆になろうとも写取ること能わざる景色であろうと想像してしまふのは、僭越なのかもしれません。

桜などの花木を凝視して気が付いたことですが、花が散りゆくには其れなりの理由があることを教えられました。

蕾をつけた枝は花を開かせ、緑の新芽が花を押しつけて散らす一連の役割を担っています。強い風や厳しい霜が花を散らすのではなく、新芽が整うまで花を支えている姿は厳しい自然の摂理と云えるでしょう。

この自然の摂理は、人間に物事のことわり(理)と秩序の真理を教えてくれると考えられます。

私達の日常生活で人々が好んで使う言葉に「和」があります。この和と云う文字の意味は、多様に幅広く使われています。

聖徳太子は「和を以て尊しと為す」との言葉を残し、茶道の「和敬清寂」に見られるように、あらゆる面で「和」の意味が尊ばれています。数学で和と云えば数と数の合計を意味しま

す。和解とはAとBが理解を深めた結果であり、二つの異なった思考の結合と考える事が出来るでしょう。

花を咲かせ、新芽が育まれる現象には「和」の心が見てとれます。この自然の摂理には現代科学の最先端の能力でも創り得ない普遍の現象が存在しています。

人間は樹木が花を咲かせ、若葉が真の緑となり、やがて紅葉となつて葉を落とす一連の変化を四季として捉え、花鳥風月として生活に取り入れていきます。これこそ自然の摂理に包まれて生活している証しなのです。

人間は何時の時代にも自然其の物から余多の知恵と人間として生きる倫理というか道徳が育まれていきます。それにも拘らず、衣食足りて礼節を忘れてしまふ人が増えていきます。自然環境は厳しければ厳しいほど人間に冷徹な倫理観による修行を求めています。片や、人間の欲望は多種多様な物質文明を繰広げ、そのため選択の余地に迷いが生まれ、物事の判断に際限ない誤解を招いています。現代こそ、自然が教えてくれる普通の知恵が人間の在り方として提起されなければならぬと考えます。

平成30年度に開設される地域創成学科は短期大学部3学科の「和」として新たな学びの環境を創造しました。自然から授けられた知恵をもって生活する人間なればこそその新学科です。



# 郡山女子大学短期大学部

## 来年4月地域創成学科を新設 地域貢献の人材を育成

本大学短期大学部は平成30年4月に地域創成学科を新設すると、5月11日記者会見し、概要を説明した。

既存の家政科福祉情報専攻、生活芸術科、文化学科を融合。併せて家政科食物栄養専攻を健康栄養学科に名称を変更し、幼児教育学科、音楽科との4学科になる。地域創成学科の定員は80人、健康栄養学科は70人。



地域創成学科の概要を発表する関口学長



地域創成学科は文化・歴史系、アート&デザイン系、ビジネス・情報系からなるユニット制を導入。従来の学科の枠を超え、学生が多彩な学びを選択できるようにする。

関口学長は「地域のために活動・研究し、地域を発展させていくのが大学・短期大学の使命であり、そのために役立つ人材を養成していく」と述べた。

石村由美子副学長、齋藤美保子主任教授が同席した。

### 福島民報社との 連携協定を締結

学校法人郡山開成学園と福島民報社は2月21日、地域の未来を切り開く人材の育成を推進することを目的として連携協定を締結した。

協定締結式は開成学園で行われた。関口理事長は「学園が持つ知的資源と新聞の良さを生かし、社会に還元していきたい」、高橋雅行社長は「教育の力と新聞の力を合わせ地域に役立つ人材の育成を目指した

### 方部別教育懇談会 本年度日程決まる

教育の充実を目指して学園長をはじめ本学教員と父兄が懇談する方部別懇談会は、今年も6月25日(日)から開催されることが決まった。懇談会では、家族会会長の挨拶、学園長による学園教育の基本方針について、また、教務部、学生生活部、就職部の各担当からの説明が行われることになっている。

また、個人面談では大学・短大アドバイザーや高校クラス担任と、より具体的な話し合いが予定されている。例年どの会場でも真剣な懇談風景がみられ、今年も実りある成果が期待されている。

- 本年度の日程は次の通り。
- 6月25日(日) 南東北方部会
- 7月2日(日) 郡山方部会
- 7月16日(日) 福島方部会
- 7月17日(月) 県南方部会



福島民報社との連携協定式

# 特集 研修紀行

## 短期大学部

短大では今年も各学科の特徴を生かした研修旅行を行った。学んだ新しい知識や世界観はこれからの学習に大いに役立つことだろう。

### 【美術研修旅行に参加して】

短大・生活芸術科 村上 実賀子

生活芸術科は2月下旬、京都と大阪へ美術研修旅行に行きました。京都では三十三間堂や二条城などを見学しました。歴史的建築物や町並みは先人たちの知識や技術が詰まっております。仏閣や神社の装飾からは日本古来の色彩感覚や当時の豊かな文化がうかがえました。また、伝統工芸である友禅染や草木染を体験することで、工芸に対する興味を強めました。大阪では国立国際美術館でルネサンス時代の絵画や現代アートを鑑賞し、USJと道頓堀では級友との交流を深めました。

研修旅行を通して、大学時代の大切な思い出を残すことができました。この経験を今後の制作や自身の成長の糧にしていきたいと考えています。



二条城にて

### 【奈良・京都での学び】

短大・文化学科 木村 美結

私たちは、2月の末に、3泊4日の研修旅行へ行ってきました。主に奈良・京都を訪れ、日本の歴史や文化に触れることができました。

奈良では、法隆寺や平城京などを巡り、日本古来の歴史を感じる事ができました。普段は本の写真で見ている世界遺産を実際に拝見することができ、とても感慨深かったです。

京都では、班別の自主研修を行い、ガイドブックを手に京都を散策しまし

た。市バスや電車を使って散策したこと、色々な面から京都を感じることができました。

今回の研修旅行では、奈良・京都を通して、改めて「文化」や「歴史」について学んだことがたくさんありました。研修旅行での学びを今後の学習に生かしていきたいと思っています。



奈良・法隆寺にて

### 【初めてのオペラと芸術】

短大・音楽科 伊藤 沙耶

私たち音楽科は1年生と2年生合同で1泊2日の日程で東京へ行きました。1日目は民音音楽博物館という歴史のある楽器が展示してあり更に音楽を聴くことができる専門博物館を見学しました。その夜は、新国立劇場でオペラ鑑賞をしました。演目はドニゼッティ作曲の「ルチア」です。実際に劇場に行き、迫力ある歌声や舞台装置に圧倒され、とても感動しました。2日目



新国立劇場で

は新国立美術館に行き、草間彌生さんの「わが永遠の魂」か、ミュシャ展のどちらかを選んで鑑賞しました。私は草間さんの作品展を選びました。独特な世界観に引き込まれ、草間さんのスケールの大きい人生観や魂を感じました。

今後の学修の幅が広がるような良い研修旅行でした。

### 【福祉情報専攻の研修旅行】

短大・家政科福祉情報専攻 宗像 真由

2月中旬、研修旅行で京都・大阪・神戸へ行って参りました。

京都では、友禅染の型染めを体験しましたが、色を塗り重ねて濃淡をつける作業は予想以上に楽しい体験でした。清水寺では、遠景を見渡して感動すると共に、外国人観光客の多さに驚きました。伏見稲荷大社で千本鳥居を歩き、友人とおみくじをひいたことも良い思い出になりました。

大阪では日本最大級の介護関連製品体験型展示施設を訪れ、最新の介護用品の見学体験をしました。介護機器を使用することで介護が少しでも楽になるようにと願う気持ちが強まりました。

神戸港震災メモリアルパークでは、22年前の阪神淡路大震災の遺構を見学し説明、ネルを拝見しましたが、私達の体験した大震災を思い出し、神戸と同様に活気を早く取り戻したいという思いが強まり、楽しさの中にも様々な事を学んだ研修旅行でした。



神戸港震災メモリアルパークにて

# 大学院・大学・短大・専攻科 345名希望の春

開成校が色づき始めた4月6日、郡山女子大学大学院博士課程第11回修士課程第24回、郡山女子大学第52回、郡山女子大学短期大学部専攻科第18回の合同入学式が建学記念講堂で行われた。

郡山開成学園オーケストラの演奏の後、大学院4名、大学78名、短期大学部262名、専攻科1名の計345名が一人ひとり呼ばれ、関口修学長が全員の入学を許可。「入学おめでとう。尊敬・責任・自由の建学

の精神を基に勉学に励み、社会のために役に立てほしい」と述べた。

来賓の日向恵開成学園家族会会長、附属高校代表小幡真矢乃さん、附属幼稚園代表の橋本旺典ちゃん、遠藤美沙ちゃんがお祝いの言葉を述べた。

さらに在学生を代表して短大・音楽科の日向杏珠翔さんが歓迎の言葉を述べた。これに対して新入生代表を代表して大学・食物栄養学科の古閑優花さんが「学則を守り震

災からの復興のために未来の希望を持ち、社会で活躍できる女性をめざして学問に邁進します」と誓いの言葉を述べた。

# 入学



# ようこそ開成の杜へ

**私が郡山女子大学を志願した理由**

私は将来、住宅やカフェ、公共施設などのインテリアコーディネートを志望していました。インテリアは部屋の雰囲気を変えただけでなく、気分も変えてくれる素晴らしいものだということを多くの人に伝えられるようなインテリアコーディネーターになりたいです。郡山女子大学は建築やインテリア、デザインについて実践的に女性らしさを活かし学べる点において最適だと感じました。私はこの4年間の大学生活を充実させると共に、最終目標である一級建築士の資格を取得できるよう頑張ります。



大学 人間生活学科 中里 優



大学 食物栄養学科 押山 莉乃



短大 生活芸術科 岩並 杏菜

私は三つの目標を持つ生活芸術科に入学しました。最初の一つは、芸術分野の中でやりたいと思うものに一杯挑戦する、二つ目は技術力や表現力を高めるためにより多くの作品に触れる、最後の一つは、芸術に関する専門知識を深めるために歴史や文化を深く学ぶことです。

芸術分野の職業を目指すということは私にとっては難しいのではないかと不安に思えます。しかし、絵を描いたり、ものを創ったり、またそれについて意見交換をするのが好きなので、あきらめず最後まで取り組みたいです。自分が本当に進みたいと思う道を見つけ、社会貢献に繋げていきたいと思います。

## 私が附属高等学校を志願した理由



附属高等学校 普通科 国分 陽奈

私は小学2年生の時に卓球と出会い、クラブで練習を続けてきました。同じクラブの先輩方が附属高校に入学し、更に強くなり活躍する姿を見て、私も先輩方のように強くなりたいと思い、附属高校を志望しました。今年インターハイ全国大会が地元郡山で開催されるので、顧問の先生の指導の下で一生懸命練習し出場したいと思っています。また、大学進学を希望している中で、希望する大学に入れるように学習を疎かにせず、部活動との両立ができるよう頑張っていきたいと思います。附属高校でいろいろな事にチャレンジし、充実した高校生活を送れるよう頑張ります。



附属高等学校 食物科 池田 明日香

自分が作った料理を食べて喜んでくれる人を見る時は嬉しすぎるくらいです。「食」は人と人をつなぐコミュニケーションになると思います。その「食」についてより深く専門的に学びたいと思い、附属高校の食物科を志望しました。食の大切さを学び、小さな子どもからお年寄りまで、様々な年代の方々に食事を提供できるように知識や技術を身につけ、たくさんの人を笑顔にできる調理師を目指したいと思えます。その目標を胸に、私は始まったばかりの高校生活を充実したものにできるような頑張ります。

# 卒業 300人が卒業

**大学院・大学・短期大学部**

大学第48回、短期大学部第66回、専攻科第16回の学位記授与並びに卒業式が3月18日、建学記念講堂で行われた。この日学舎をあとにしたのは大学生82人、短大生216人、専攻科2人の計300人。

保護者、教職員が見守る中、各科総代に関口修学長から卒業証書・学位記が授与された。「卒業おめでとう。大学での学びを味方に、地域社会の発展に力を注いでほしい」と告辞した。

来賓として日向恵開成学園会長、名



感謝の言葉を述べる大越美穂さん

**附属高等学校**

附属高校の第58回卒業式が3月3日、建学記念講堂で挙行された。普通科71人、音楽科8人、美術科13人、食物科29人の計121人の卒業生が式に臨んだ。

卒業証書授与では担任から一人ひとりが呼ばれる度に「ハイ」と元気な返事、それぞれの科の代表に卒業証書が手渡された。

その後、表彰に移り、学園長賞1名、学校長賞3名、皆勤賞19名、精勤賞9名が表彰された。

佐々木貞子校長が「卒業おめでとう。今日まで育ててくれた周りの人々に感謝し、可能性に挑戦してください」と述べた。在校生を代表して生徒会長の中山優花さんが送辞を述べた。

倉美恵子郡山女子大学同窓会長が祝辞を述べた。続いて附属高校の吉田華澄さん、附属幼稚園の三部史樹君と滝口明衣さんがお別れの言葉を贈った。

そして、在校生代表の短大・生活芸術科の須賀愛良さんが送辞を述べたのに対し、卒業生と修了生を代表して大学・食物栄養学科の大越美穂さんが惜別の思いを感謝の言葉に託し答辞とした。

**附属幼稚園**

学園の梅のつぼみがふくらみ始めた3月19日、附属幼稚園の第62回卒業式が建学記念講堂小ホールで行われた。お家の方々や先生に見守られた31人が晴れの日を迎えた。

賀門康博園長先生から卒園児一人ひとりに「げんきで、あかるくて、なまで、のびよ」と書かれた卒園証書が手渡された。

喜多和江父母会長、諸橋直純同窓会長がお祝いの言葉を述べた。園児には卒園記念樹(白梅)が一本ずつ贈られた。年中組園児や先生方の拍手で、園児は、小学校でも勉強と運動に励むことなどを誓った。

述べて、卒業生を代表して佐藤千桐さんが3年間の思い出を答辞に込め、式が終了した。

また、卒業記念品として保護者会からプロジェクター・機器等が佐々木貞子校長に贈られた。

**附属高等学校**

桜のつぼみがほころび始めた4月7日、平成29年度郡山女子大学附属高等学校第61回入学式が建学記念講堂で挙行された。

式は開成学園オーケストラによる演奏、「コラール」すべての宝にまざる宝「我らの神は固き城塞なり」の演奏に続いて厳かに進められた。

新入生は普通科89名、音楽科8名、美術科10名、食物科36名の143名。各担任より一人ひとりが呼

名され、佐々木貞子校長より入学が許可された。

校長は式辞の中で、「附属高校生として学習や部活動に積極的に取り組み、自己研鑽に努めてくださる」と述べた。その後、在校生を代表して生徒会長の中山優花さんが歓迎の言葉を述べた。

新入生代表の遠藤楓花さんが保護者と共に心を「建学の精神を理解し、社会で役立つ女性を目指します」と学校長に誓いの言葉を述べた。

**附属幼稚園**

第63回を迎えた附属幼稚園の入学式は桜が咲き始めた4月12日に行われ、42人が入園した。新しい制服がとてめ微笑ましく感じられ、名前を呼ばれると大きな声で元気に返事をした。

賀門康博園長が「幼稚園のお約束を守って元気に遊んでください」と挨拶した。在園児から大きな手作りの首飾りが贈られ、明日からの幼稚園生活に期待をふくらませていた。

**全国大会へ**

東北総体2017県大会結果

ハンドボール部3年連続3回目

決勝リーグ

郡山女子大附属31-14郡山東

31-15橘

32-19いわき総合

バレーボール部

完全Vで4連覇

2回戦 2-0 安達

3回戦 2-0 白河

準決勝 2-0 光学学風

決勝 2-0 聖光学院

2-0 郡山東

新体操 団体 優勝!

個人総合

2位 渡辺 柚芽理

3位 金沢 萌桃

※共に東北大会へ

**卓球部は団体初出場**

▼学校対抗

郡山女子大附属3-0 磐城一

3-1 福島東陵

1-3 桜の聖母

▼ダブルス

○全国大会・東北大会出場

押山 桜月・長谷川 春佳

小林 菜歩・菊田 美奈

○東北大会出場

伊藤 笑・国分 陽奈

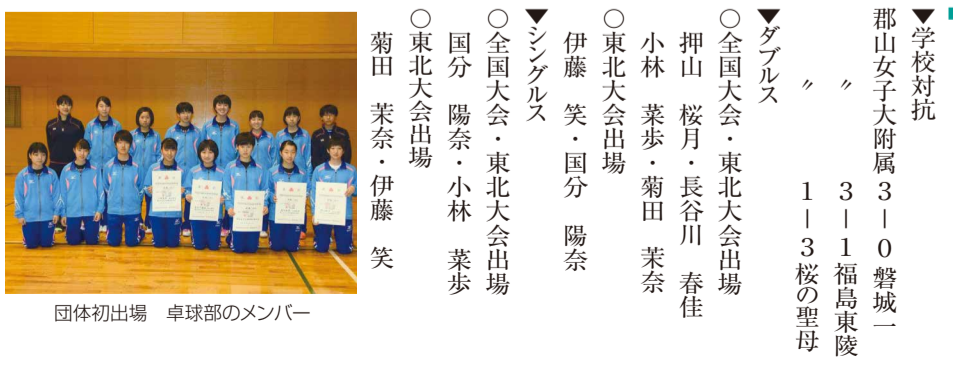
▼シングルス

○全国大会・東北大会出場

国分 陽奈・小林 菜歩

○東北大会出場

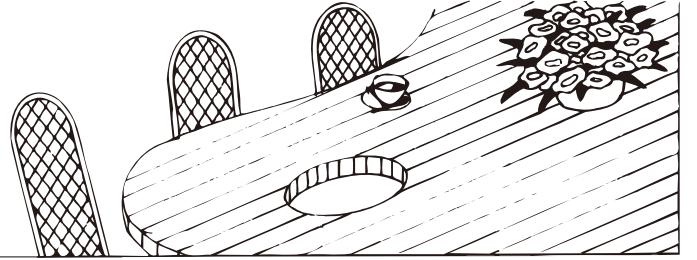
菊田 美奈・伊藤 笑



団体初出場 卓球部のメンバー

# ティールーム

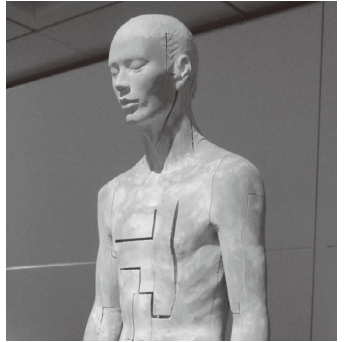
コミュニケーション・フォーラム



## 学生時代の先輩のこと

黒沼 令

先日、大学時代の先輩Mさんと久しぶりに再会しました。Mさんとは同じ研究室で、彫刻作品の制作や先生の仕事の手伝い、芸術全般の話、学生時代特有の遊びや相談など、一緒に多くの時間を過ごし、文字通り苦楽を共にした間柄でした。現在は、故郷の原町で警備関係の仕事をしていて、東日本大震災の時は仕事も家庭も大変な状況だったようです。二人きりで会うのはもしかしたら大学時代以来だったかもしれません。そんなブランクを忘れるくらい会話は盛り上がり学生に戻ったような感覚になりました。会話の多くは、思い出話や、今つづけているもの話で、Mさんは学生の時は私が自信無くすくらい感覚的に見事な彫刻



「じま」第91回国展出品作品

作品をつくっていましたが、今は木の器をつくっているということ。どうせ何かつくるなら昔みたい彫刻作品をつくるべきだと伝えましたが、木工芸は彫刻と違って潰しが効くという理由で木工作品の制作をしているそうです。大学で学んだことは変わりましたが、Mさんが今でも柔軟に楽しくものをつくっている姿を見て少し羨ましく感じました。

震災以降の生活環境の変化や仕事のことなど、お互い全く違う時間を過ごしてきたわけですが、暗い話には一切ならず、学生時代に築いた人間関係は貴重でありがたいものと改めて感じる時間でした。

(短期大学部・生活芸術科講師)

## 食と向き合う



大学  
家政学部食物栄養学科3年  
松川 莉彩

私達はどのように食と向き合うべきなのでしょう。私達の身体は食べ物でできており、人が生きていくには食事から必要な栄養素をバランスよく摂っていくなくてはなりません。しかし、学校の授業や私生活で忙しくなるとつい偏った食生活になつてしまいます。

私自身も時間に余裕がない時、食事を菓子パンで済ませてしまうなど

不摂生な食習慣が続いたことで体調を崩したことがあります。このことから、単に食物を摂取さえすれば健康な生活が送れるのではないと強く感じました。近年、サプリメントや栄養食品が豊富で頼りがちですが、自らバランスを考えて作った料理を食べることで食材の味や食感を知り、食の楽しさを発見することが食事を再認識するうえで大切だと思います。食物栄養学科で勉強し、先方から指導を受ける中でそのような再認識を得られたと思います。また、栄養のバランスが良いだけでは心身の健康は十分に得られないといふと、精神的な満足感が得られないのではないのでしょうか。友人や家族と共に食事をすることで、楽しい時間を過ごすことで心の充足を得ることも重要ではないかと思えます。今、健康だからといって偏った食事を続けているはなりません。自分の将来を考えて食事をすることを私たちは心がけていくべきです。



## 賞を通じて学んだ事



附属高等学校  
美術科3年  
葛西 由佳

私は幼い頃から絵を描く事が好きで、将来は美術に関する仕事に就きたいとずっと考えてきました。そ

して、夢の実現の為に、郡山女子大学附属高校の美術科に入学し、日々制作をしてきました。制作中には苦しい事もありますが、それを乗り越え、昨年は全国植樹祭ポスター最優秀賞を頂きました。このポスターも、締切直前までなかなか終わらせる事ができず、とても苦しかったのですが、やっと自分が納得できるレベルで完成した時の達成感、この上ないものでした。また、賞を頂いた後は、周りの人から様々な感想を頂き、大きな喜びを感じました。それだけでなく、少し時を置いて自分の作品と向き合うと、制作時には気づかなかった所が客観的に見えてきて、新たな発見があり、とても勉強になりました。



第69回全国植樹祭大会ポスター原画及び平成29年度国土緑化運動・育樹運動ポスター原画

## 私の本棚

### 『わが子が「お友達」関係で悩まない本』

(フォレスト出版)

郡山女子大学人間生活学科

教授 安田 純子

学問をするうえで古典と呼ばれる厳めしそうな文献にあたらねばならないことが多々ありますが、書店にふらりと立ち寄り平積みになつている本を手にとると、今が見えておもしろいことがあります。小学生の子どもをもつ親を対象とした

メタボリックシンドローム(通称…メタボ)というと、中年の小太りの人をイメージするが最近ではやせメタボという表現が出てきた。昨年、順天堂大学の田村好史准教授率いる代謝内科学チームが肥満でなくとも、血圧・脂肪・血糖値のいずれかひとつが異常である人は筋肉内に脂肪をため込み、インスリンの効きを悪くするインスリン抵抗性が増すことを発表した。田村氏によると通常は、肝臓に脂肪がたまり、脂肪肝となるが、糖の取り込みをする骨格筋でも脂肪がたまる。これらを異所性脂肪というらしい。原因は運動不足にあり、1日4000歩のウォーキングで脂肪筋は改善するそう。

## 生活診断室 シリーズ 69 今より10分多く歩こう

郡山女子大学 食物栄養学科  
准教授 岡部 聡子

おそらく、1日4000歩は歩いていない。気休めにスポーツクラブに週1回30分通っている。それが唯一のよりどころである。

私に限らず、若い人も同様の傾向があるように感じる。エレベーターがある階段を使わずに、そちらを利用する。楽な方へと流れるのが人間の性(さが)らしい。食べることに動くこと、このバランスをいかに保つかが健康を左右する。厚生労働省の身体活動指針では、毎日あと10分多く歩こうと呼びかけている。10分ならできるかも。

『わが子が「お友達」関係で悩まない本』という少し長めの題の新書もその一つです。この本は教員歴38年という元教師が書いているので、現場における内からの視点で話が進んでおり、外から把握するしかない親の迷いへの答えと対処法が書かれています。今や小学生まで、人間関係を考えねばならなくなつたこと、特にいじめについて、するほうとされるほうの簡単に翻ることには驚きで、また教員サイドの大変な様子も垣間見られます。なかでも注目したいのは、読書習慣を持つている子の底力、ということ。著者は勉強の本質は読書、人間関係の基礎、心の成長をつくるのも読書、「紙本」の力は非常に大きいと書いています。また、家で見せる顔が一番リラックスできている状態に、ということ。著者は家庭教育の大切さとともに、学校(外部)と家庭(内部)のあり方が大切だということに触れています。このことは、家政学の領域に「児童」があること、本学家政学で重要な空間分析(内部空間・外部空間)の理論とも一致しています。

# ようこそ 郡山開成学園へ

## 新任教職員の方々のご紹介

### 郡山女子大学

(4月1日付)

【本採用】



**長田 誠一** 講師  
東海大学大学院総合理工学研究科総合理工学専攻  
修了  
平成26年度から期限付講師  
所属 大学・人間生活学

### 短期大学部

【本採用】



**武地 誠一** 准教授  
東北大学農学部農芸化学科卒 福島県職員  
平成26年度から期限付准教授  
所属 短大・家政科食物栄養専攻

### 事務局

【本採用】



**小橋 健人** 職員  
福島大学経済経営学類卒  
平成26年度から期限付職員  
所属 高校事務局

### 期限付雇用職員

【本採用】



**根本 絢香** 助手  
郡山女子大学食物栄養学  
科卒  
所属 福祉法人桜福祉会  
所属 大学・食物栄養学



**中村 千晶** 助手  
郡山女子大学食物栄養学  
科卒  
所属 大学・食物栄養学



**佐藤 由佳** 助手  
郡山女子大学食物栄養学  
科卒  
所属 短大・家政科食物  
栄養専攻



**長谷川 晴香** 助手  
郡山女子大学短期大学部  
幼児教育学科卒  
所属 短大・幼児教育学  
科



**山内 啓子** 職員  
横浜国立大学大学院教育  
学研究科芸術系教育専攻  
音楽教育分野修了  
星美学園中学・高校教諭  
(音楽)  
所属 入学事務・広報部



**樽井 里佳** 職員  
郡山女子大学短期大学部  
幼児教育学科卒  
所属 入学事務・広報部



**古川 京子** 職員  
東京女子体育大学卒  
公立中学校教諭  
所属 高校事務局



**佐藤 ゆかり** 教諭  
郡山女子大学短期大学部  
保育科卒  
郡山女子大学附属幼稚園  
非常勤講師  
所属 幼稚園



**車田 博幸** 職員  
(株)東武  
所属 家庭寮



**穴澤 睦美** 職員  
郡山女子大学人間生活学  
科卒  
県立郡山高等学校図書館  
司書  
所属 経理部



**久保木 陽子** 職員  
郡山女子大学食物栄養学  
科卒  
医療法人平心会介護老人  
保健施設アネリス  
所属 学生生活部

■昇任  
▼事務局／総務部IR室主任 本  
多泰治(教務部)・学生生活部主  
任 宗形美幸(学生生活部)

### 異動

- ▼管財部用度係／阿部真澄(総務部)
- ▼教務部係長／佐藤利枝子(管財部係長)・皆川智彦(高校)
- ▼教務部／鈴木美由紀(学生生活部)
- ▼高校事務局／七海淳子(総務部)
- ▼総務部／菅野真由美(高校事務局)
- ▼放送大学福島学習センター／小川一樹(高校)

### 平成28年度で退職された方々

3月末日で、次の方々が郡山開成学園を退職されました。  
これまでのご活躍、ご健闘をお祈り申し上げます。

### 【第一定年】

▼事務局／岩谷まり子 経理部出納課長

### 【依願退職】

- ▼大学／佐藤典子 准教授・中村真智子 助手
- ▼短大／古川督講師
- ▼附属高校／平山雅浩 教諭
- ▼事務局／佐藤亜希 職員

### 【期限付期間満了退職】

- ▼大学／諸岡信久 教授・細矢晴日 助手
- ▼短大／岡部富士夫 教授・庄司みさ紀 助手・小林みゆき 助手
- ▼附属高校／増子恵美 講師
- ▼事務局／本田徳通 職員・阿部智子 職員・池田理咲子 職員・大友優真 職員・遠藤一美 職員

# NEWS 学園ニュース

## 第10回音楽アンサンブルコンテスト全国大会

2年連続9回目の出場  
銅賞(3月18日土)福島市音楽堂

## 我が家自慢の鍋料理

3種のつみれ鍋が最優秀  
福島民友新聞社と全農県本部の主催による「鍋奉行も納得。我が家自慢の福鍋 満腹絶倒計画」にて、遠藤さん親子が考案した3種のつみれ鍋が最優秀賞を受賞。この鍋は県内9店舗で期間限定で提供された。



最優秀賞の福鍋を考案した遠藤羽衣さん(左)と愛子さん親子

## 第1回きのこ料理コンテスト

伊藤紫音さんが最優秀賞  
第1回きのこ料理コンテスト最終審査が12月17日に行われ、県内の高校生や主婦から110点の応募があった。

伊藤紫音さん(高3)の「福島きのこパークの野菜あんかけ」が最優秀賞に選ばれ、3月に都内で開かれた全国大会に出場し、日本特用林産振興会長賞と全国農業協同組合連合会長賞を受賞した。

## インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2017

入賞 飯村 菜月(高3)

## 第67回モダンアート展

入選 小松 太志 教授(短・生芸)  
モダンアート展は4月2日から16日まで、東京・上野の東京都美術館で開かれた。

## 第20回マーチング&パトロンズフェスティバル大会で金賞

全国大会は2月18日・19日、横浜市の神奈川県民ホールで行われ、2年連続、金賞に相当の優秀賞・講評者特別賞を受賞。

## インターハイボスター原画入賞者

卓球 優秀 永山美智佳(高3)

## 先輩を訪ねて



市川 真愛 さん  
平成27年度 短期大学部幼児教育学科卒業

現在、郡山市中野保育所に勤務する保育士2年目の市川真愛さん。実は、お母さんも同学科の卒業生で保育士の大先輩だそうです。市川さんが子供の頃に、親戚や地域の年下の子たちの面倒をよくみていたことから、「保育士を目指してみたら」とお母さんから勧められたのがきっかけでした。  
「去年は、0歳から2歳までのクラ

## 第28回附属高等学校校長杯 中学女子バレーボール大会 郡山七中優勝

2月25日、附属高校学園第3体育館において、第28回附属高等学校校長杯中学女子バレーボール大会が行われ、郡山第七中学校が優勝しました。

## 音楽科技術講習会

第1位 郡山第七中学校  
第2位 明健中学校  
第3位 東北中学校

## 地域創成学科 (現・生活芸術科)

## デッサン講習会日程決まる

夏休み恒例の短大音楽科の受験生を対象とした技術講習会は、8月7日(月)と8日(火)、地域創成学科のデッサン講習会は、7月21日(金)、22日(土)、23日(日)に決まった。定員制なので、お申し込みはお早めにとぞ。

ス、今年は2〜3歳児クラスを担当しています。大きい子たちがお兄さん、お姉さんになって下の子たちの面倒をみてくれたり、日々成長ぶりに驚かされます。学校で勉強したことと保育の現場で働く事の違いはあるけれど、「やってみて反省することもあります。子供たちの笑顔を見るとやがていを感じます」と市川さん。  
学生時代の思い出は「オペレッタですね。皆で一つの作品を作り上げていくことの難しさや、できた時の達成感。その経験が今の自分に生かされていると思います。今でもお休みの日に同期が集まったり、先生に仕事の相談をすることもあったりか。」「学生時代は何事にも精一杯取り組んで仲間との絆を深めてください」と、先輩へのメッセージを頂きました。

### 古殿町から 大学食物栄養学科と 学生に感謝状

古殿町が町内産米を使った凍餅を東京都内で販売し、町のアピールに協力した本学・食物栄養学科と学生に感謝状を贈った。  
学生は今年度、町内のふるさと工房おざわふぁーむで田植え・稲刈り・凍餅の製造までを体験した。3月、都内「日本橋ふくしま館MIDE TTE」で凍餅を売り、県内外に古殿町の特産品をPRした。  
贈呈式は大学食物栄養学科で行われ、葛力創造舎の下枝浩徳代表理事から紺野信弘主任教授、学生代表の



下枝理事長から感謝状を受けた  
(右から)紺野教授、山田さん、和田さん

山田理菜さん(2年)、和田篤寿香さん(同)に感謝状が贈られた。山田さんは「古殿町の皆さんと仲良くなり、貴重な経験ができた」。和田さんは「農家の素晴らしい技術や農業に対する情熱を感じた」と感想を語った。

### 心を込めて昔ながらの田植え おいしいお米づくりに挑戦

昔ながらの田植えには短期大学食物栄養専攻、附属高校食物科、附属幼稚園の園児ら180人が参加。JA福島さくらの協力で日本の主食である米の生産過程を学んだ。  
関口修理理事長、結城政美組合長があいさつした後、短期大学部2年齋藤愛夏さんと高校3年の松崎未来さんが「農家の皆さんに感謝し、心を込めて田植えをします」と誓った。JA職員から指導を受けながら、短期大学部2年中島美晴さんと高校3年武藤美石さんが田植えの目印を



「がじ引き」を体験

引く「がじ引き」を体験した。  
生徒らは泥に足を取られながら、おいしいお米ができるよう願って、約20アールの田んぼに苗を丁寧に植えた。収穫されるお米はもみじ会で来場者に振る舞われる。

### 第198回芸術鑑賞講座 林家木久扇落語鑑賞会

福島中央テレビの人気番組「笑点」でおなじみの落語家 林家木久扇師匠を招いた第198回芸術鑑賞講座が5月16日、建学記念講堂で行われた。木久扇師匠は弟子のひろ木さんと登場し、なぞかけや落語などを披露。会場は笑いの渦に包まれた。



落語家 林家木久扇師匠

### 福島県合唱連盟創立70周年記念事業 青少年選抜合唱団 欧州公演に参加して

附属高校音楽科3年  
小寺 葉月

福島県合唱連盟主催の欧州演奏旅行に参加し、大変貴重な経験をさせていただきました。県内各地からメンバーが集まり、月に1度の練習を1年間積み重ねて臨んだ演奏旅行でした。ウィーンやザルツブルクで本場の

### 第3回グローバル・レディ育成 研修ツアーinハワイ参加者募集

姉妹校であるハワイ州立大学マウイコミュニティカレッジ協力のもと行われる、大学オリジナル研修プログラムです。一般的な語学研修では体験できない、様々なアクティビティが満載。「語学」のみならず「異文化対応力」や「主体性実行力」など真のグローバル・レディ(人材)の育成を大学がサポートします。(代金の一部を学園が負担します)詳しくは生涯学習・国際交流委員会 安田純子先生(内線255)へ。



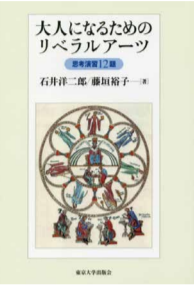
西洋音楽に触れ、モーツァルトも演奏したミラベル宮殿で演奏することができたことなど、忘れられない経験となりました。普段の部活動での合唱とは異なる環境でたくさんのごちをを感じ、数多くのごちを学ぶことができました。



小寺葉月さん

### BOOK 郡山女子大学 大学図書館

新しい本が届きました… 第4回



### 『大人になるための リベラルアーツ』

石井洋二郎,  
藤垣裕子著,  
東京大学出版会  
請求記号 002II

### 『掘った、考えた』

大塚初重著,  
中央公論新社  
請求記号 289.1II



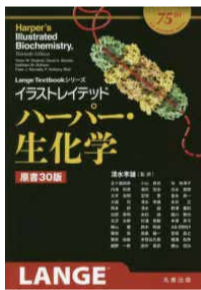
### 『そこに音楽が あった』

梶山寿子著,  
文藝春秋  
請求記号 369.31IIKa



### 『イラストレイテッド ハーパー・ 生化学』 原書30版

清水孝雄監訳,  
内海利男[ほか]訳,  
丸善出版  
請求記号 464IIHa



### 美術科

### 紙上美術展 82

郡山女子大学附属高校美術科3年生油彩画専攻者の作品です。授業および朝や放課後の時間を活用して熱心に制作を行っています。その展示に向けて制作した最初の作品です。



かさい ゆか  
葛西 由佳

### 「その先へ」

F50号

辛いことがあっても前を向いていきたい、辛いことがあっても前向きに生きてもらいたいという思いで描きました。希望という言葉を持って白いガーベラをあわせて描きました。



わたなべ かりん  
渡部 花梨

### 「めくるめくつむじたち」

F50号

微妙に偉そうな目線で旋毛を見ていたら、目がまわった「人」と「なると」を描きました。なるとも旋毛も分からないまま埋もれていく様子を表現しました。

### 木もれ陽

新入生の入学とともに訪れた春は早くも過ぎ去りつつあり、新緑が映える季節を迎えようとしている。

今年も、桜の花が美しく咲き、開成山公園にはお花見に多くの人が集まり、開成山大神宮には屋台も出て人々で賑わった。6年前の東日本震災の年だけは花見をする人をほとんど見かけなかったが、それ以外の年には繰り返されて来たことである。ここから少し離れて閑静な開成の杜には、例年通り桜の花が咲くと同時にヒヨドリや群れがやってきた。ヒヨドリは、「ヒヨ、ヒヨ」のさえずりを静かな杜に響かせながら桜の花をついばんで、花が散ると一時どこかに去っていった。そして、新芽が出てくると今度は新芽を食べるために戻ってきた。カラスやハトなど多くの鳥が開成の杜に棲み、メジロやムクドリなど様々な野鳥が開成の杜を訪れる。開成の杜では、毎年繰り返される季節の変化と自然の営みを

身近に肌で感じるができる。  
ヒヨドリは、花や新芽の他に果実(柿やみかんなど)やアブラナ科の植物の苗や野菜(キャベツやブロッコリーなど)も食べるため、農家にとっては厄介者である。一方、ムクドリは農作物の害虫を餌にして食べるため農家にとって益鳥とされてきた。しかし、最近ではムクドリは、市街地の街路樹や公園などに大群で生息するようになり、夜間の騒音(「キルキュル」の鳴き声の合唱)や糞の落下のために住民の害鳥になっているそうである。森が開発されて本来の住み処が減ったため、ムクドリが市街地に住むようになったのではないかと推測されている。環境の変化や人間の活動が野鳥の数や生態に影響することもあるかもしれないが、これからは何と共存して身近に自然を感じながら、自然を楽しむ心を持ち続けられればと願っている。  
(坂)